



科学の眼

まなこ

発行: 姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話: 079-267-3961)
<http://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

地質シリーズ

姫路市安富町の自然

しかがっぼ おうけつ 鹿ヶ壺の甌穴

Pot hole

姫路科学館 館長 青野克美

姫路科学館から北へ約 30 km、安富ダムを越えたところで、道の両側に様々なポーズをとる地域の方に出会えます。よく見ると、人ではなくかかしであることに気付き、驚くと同時に心が和みます。

このあたりは、雪彦峰山県立自然公園に指定され、一年を通して四季折々の自然を楽しむことができます。

今回は、揖保川水系林田川の上流に位置し、姫路市を代表する県指定名勝である「鹿ヶ壺」について紹介します。



写真1 出迎えてくれる村人?

■安富町の地質

鹿ヶ壺は、景勝地として有名ですが、平成22年改訂兵庫県版レッドデータの地形でCランク、地質でBランクに指定されています。このレッドデータは絶滅の危機にある貴重な生物、地形などを保全する目的で平成7年に兵庫県が独自でまとめたもので、平成22年度には地形・地質・自然景観について2度目の改訂を行いました。

鹿ヶ壺がある安富町一帯の岩石は、海底の砂や泥が積もった堆積岩と火山活動による火山岩に分けられます(図1)。

堆積岩は、安富町末広中ノ谷から発見されたフズリナやアンモナイトの印象化石から、古生代~中生代ジュラ紀のものと考えられています。

また、火山岩は、白亜紀に起きた大規模な火山活動でできたものです。粘り気の強い(SiO₂を多く含む)溶岩起源の白っぽい火山岩の一種、流紋岩がこの辺り一帯を覆い尽くしたと考えられています。

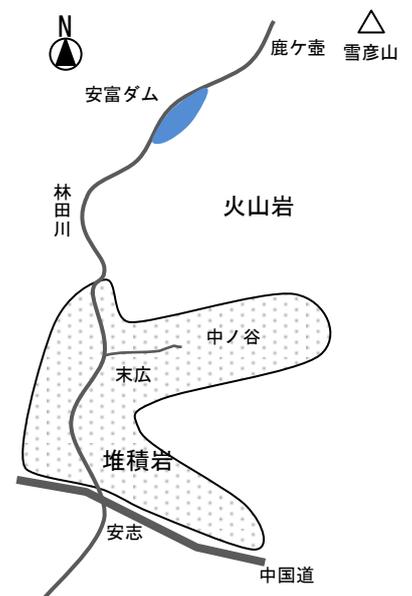


図1 安富町の地質

■ 甌穴（おうけつ）

県道のそばにある鹿ヶ壺山荘から徒歩で沢沿いしばらく山中に入ると滝壺があります。さらに進むと大小様々な滝壺に出会います。これが甌穴^{おうけつ}です。

甌穴とは、長い年月をかけ、水流や礫によって河底が浸食されたくぼみのことです。一度くぼみができると、水の流れて礫がさらにくぼみを削り、次第に大きなくぼみをつくることになるのです（図2）。

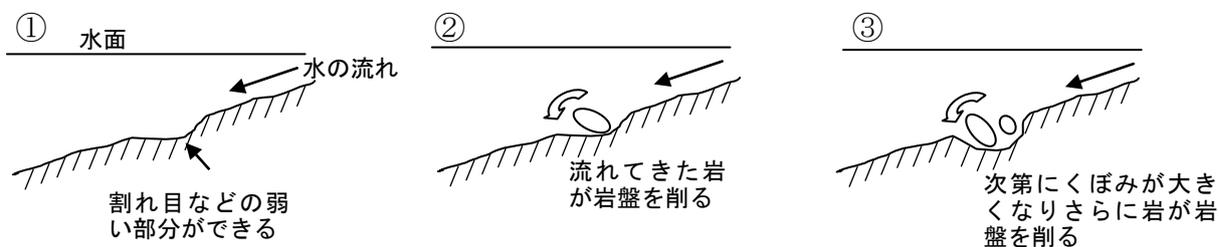


図2 甌穴ができるモデル図

この鹿ヶ壺には、直径が1～5mぐらいの甌穴が十数個並ぶ甌穴群をつくり、全国的に見ても貴重な地形といえます。

この甌穴群の中でも特に「鹿ヶ壺」と呼ばれる甌穴が有名で、平成2年に町指定天然記念物に、平成18年に市指定天然記念物として引き継がれました。「鹿ヶ壺」の名前は、横幅が約5mの甌穴と甌穴の上の割れ目が、ちょうど鹿の寝ている姿に似ていることに由来しています（写真2）。

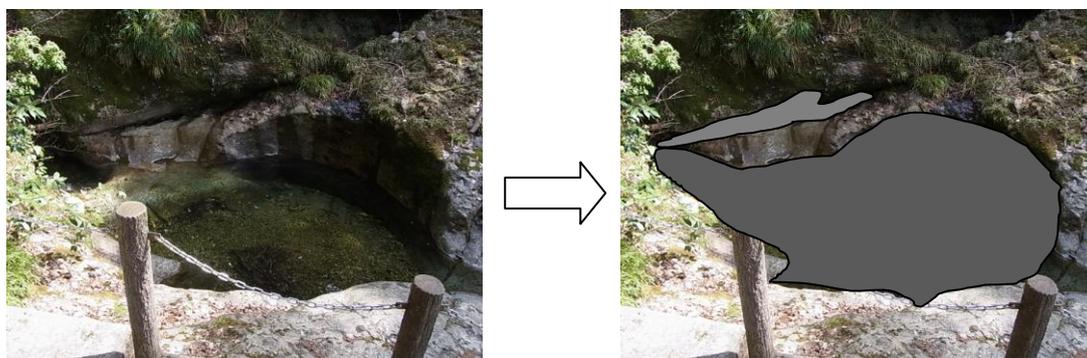


写真2 甌穴が鹿の寝姿に似ている

甌穴群の一つ「雑桶壺^{ざうぼくづぼ}」の表面は、つるつるしています（写真3）。長い年月をかけて、小石や砂粒が水の流れて表面を磨いていったことがうかがわれます。写真では、甌穴の丸みやつるつる感が出ないのが残念です。

また、兵庫県の北部、竹野海岸にある猫崎には、波の力によってできた波食甌穴群があります。波によって平らになった波食棚には、様々な大きさの無数の甌穴を見ることができます。



写真3 雑桶壺

水量が増す時は危険が伴いますが、季節のいい時期に一度足を運び、自然がつくり出す不思議な造形美を観察してみたいと思います。